

## 令和５年度岐南町・笠松町総合教育会議 議事要旨

令和５年５月２２日（月）午前１０時３０分から、岐南町中央公民館 学習室で開催した。  
その要旨は次のとおりである。

### １ 出席者

|              |         |        |         |
|--------------|---------|--------|---------|
| 笠松町長         | 古 田 聖 人 |        |         |
| 教育長          | 野 原 弘 康 |        |         |
| 教育委員         | 久 納 万里子 | 教育委員   | 岩 井 弘 榮 |
| 教育委員         | 西 雅 代   | 教育委員   | 羽田野 正 史 |
| 岐南町副町長       | 傍 島 敬 隆 | 笠松町副町長 | 川 部 時 文 |
| ＜羽島郡二町教育委員会＞ |         |        |         |
| 管理監兼総務課長     | 坂 井 政 俊 | 学校教育課長 | 宮 川 浩 司 |
| 社会教育課長       | 藤 枝 豊 和 |        |         |
| ＜笠松町＞        |         |        |         |
| 教育文化部長       | 天 野 富 三 | 教育文化課長 | 赤 塚 暢 子 |
| ＜岐南町＞        |         |        |         |
| 住民部長         | 岩 田 恵 司 | 生涯教育課長 | 小野木 崇 夫 |
| 生涯教育課主査      | 神 谷 里 衣 |        |         |

### ２ 次第

- (１) 笠松町長あいさつ
- (２) 羽島郡二町教育大綱及び第４次教育振興基本計画策定に向けて  
(二町教育委員会)
- (３) 意見交換

### ３ 議事

(１０時３０分開会)

生涯教育課長            それでは全員お集まりですので、ただいまから令和五年度岐南町・笠松町総合教育会議を開催させていただきます。本日は皆様お忙しい中、本会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。今回の司会進行を務めさせていただきます、岐南町役場生涯教育課長の小野木です。皆様方のご協力により円滑に会議が進行できますよう努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。皆様のご紹介は出席者名簿と名札にて代えさせていただきます。また、会議中に広報

用の写真撮影をさせていただきますことと、議事録作成のため、ボイスレコーダーにて録音しますことをご了承願います。

それでは初めに、町長会会長であります、古田笠松町長がご挨拶を申し上げます。

笠松町長

おはようございます。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。コロナも、ようやく一息をついたというか新しいフレーズに入りました。学校関係の皆さん、またそれぞれ教育関連の現場の皆さん、安堵の気持ちを今いただいているかと思いますが、このコロナ禍の三年間で、本当に色々なことがありました。臨時休校なり、またオンライン授業なり、また各種行事が中止・延期、或いは規模の縮小ということで、この三年余のコロナ禍において、色々な教育現場においても、様々な負担があったわけであります。そしてこれから元に戻していくと言っても、三年という長い時間で、社会そのものが変容してしまったのではないかなと私はひしひしと感じております。その社会の変容というのが、イコール、それぞれの日本人というか私達の意識の変わり方っていうのも大きなものがあるのではないかと思います。

例えばこの学校関係で言いますと、よく最近、新聞やテレビ等でも賑わしていますが、保護者の方々がPTAとか子ども会に対して距離を置くような動きが非常に顕著になってきたということ。またSNSの影響でしょうか、非常に自分たちの主義主張は訴えるが、他の意見はちょっと聞かないという、これは学校のみならず社会全体がそういうような状況になりつつあるという、懸念も抱いているわけであります。今すぐに子どもたちにどういう、こういった社会の変容が影響を与えるかというのは私自身わかりませんが、ただこれ五年、十年こういったものが続いてくると、今の子どもたちが大人になったとき、或いは親になったときにこの日本の社会がどうなるかという強い危機感を、一方で感じているわけであります。この総合教育会議におきましては、もちろん今、目の前にある課題も重要ですが、五年、十年、そして二十年という長いスパンでこの羽島郡の教育をどうするか、どういった子どもに育って欲しいか、そういう視点を、踏まえながら、皆さんから活発な意見、或いはアイデアを頂戴できたら、大変ありがたいと思います。

それでは限られた時間ではありますが、充実した会議になりますよう、祈念いたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

生涯教育課長                      ありがとうございました。続きまして、傍島岐南副町長からご挨拶いただきます。

岐南副町長                      皆さんおはようございます。  
この度は、小島町長の一連の報道によりまして、皆様に大変なご迷惑をおかけしておりますことをまずもってお詫び致します。今後におきましては、岐南町といたしましても第三者委員会を設置して、事の真偽を確認しつつ、色々な調査をしていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

生涯教育課長                      ありがとうございました。それでは本日の議題に入らせていただきます。本日は、羽島郡二町教育大綱及び第四次教育振興基本計画策定に向けてについて、二町教育委員会から説明をしていただきます。それでは羽島郡二町教育委員会野原教育長お願いいたします。

教育長                              改めましてこんにちは。本日はありがとうございます。令和五年度の総合教育会議でございますけれども、本日のテーマでありましたのは羽島郡二町教育大綱及び第四次教育振興計画の策定ということをお知らせさせていただきました。現在、第三次教育振興計画に基づいて教育実践されております。五年間、各年、毎年ですけれども、それを振興計画に基づいて、各町の方には、点検評価委員の方で審議をされた内容を、資料をもってご説明させていただいているところでございます。その期間も、今年で終わって、そしてまた来年度から新しい振興計画がスタートするということで、本日は、皆様方から、多面的多角的といえますか、幅広い観点からご意見をいただければありがたいなというふうに思っております。資料の説明を簡単にさせていただきます。

(資料説明略)

羽島郡といたしまして少し、私が、学校教育会議総会の中でお話をさせていただいたことを、少しだけお話をさせていただこうと思っています。

こちらの資料に基づいてお話をさせていただきます。

先ほど古田町長さんの話もありましたが、コロナがあけて元に戻すという感覚ではなく、やっぱりそこから見えてきたものをきちっと取り入れながら、新しいものを作っていくという、そうした教育活動を

展開して欲しいな、そんな願いでお話をしました。スライドに番号が振ってないようで申し訳ないのですが、左上から一番、右へ行って二番下へ行って三番というような形で簡単に触れます。

一番目のスライドについては、学校でやるべきことは何かということ、を明確にしたいなということを思っていて、特に青色で示した辺りを学校として取り組んでいきたい。ただ、もちろん軽重があるので、その辺の軽重をつけながらそれについて具体的に話をしたということ、そしてもう一つは、子どもが育つ場というのは、学校だけではないということです。自分の反省でございますけれども、私が教員の時に、担任を持ったら、この子たちは私が育てるのだと独りよがりの強い思い、ある意味良いプライドなのか、悪いプライドなのかわかりませんが、そんな気概を持って、他の先生方には指導を受けないというところが自分の中にありまして、そうではなくって、本当にみんなで育てていくという、そういった視点を、先生方にやっぱり持ってもらって、学校だけじゃなくて、地域でもいろいろ学ぶ場があった、学んでいるのだよ。家庭の中でも学んでいるのだよ。そのことを理解した上で教育活動を進めてね。ということは最初にお伝えをしました。

二つ目のスライドです。これからの時代、人口減少であるとか AI、IT などの進化、或いは目先不透明な時代の中で、最適解を求めると言われています。国の調査で一歩先いく一八歳の子どもたちの意識を見たときに、精神的な幸福度の低さとか自己肯定感の低さとかもう一つは主義主張について言われています。先ほど古田町長さんの話ではないのですが、主義主張はするよ、でも自分に振り返って考えることはなかなか言えないところもあるとおっしゃいましたが、そういったところも一つ大きな課題になってくるのかなあと。そういったことを踏まえたときに、私はやっぱり、まず当事者意識、自分の問題なのだという、自分のことなのだという意識をもつこと、そして主体的に物事に向かう。或いは様々なことで考えを生み出す。互いに伸長し認め合う、これは言われた通りするっていうわけではないのですけれども、考えをきちっと聞く或いは多様に回る。そうしたことを子どもたちに勧めさせていかなければならないと感じています。学校教育でやることは、一つには個性の伸長を図る教育活動を推進する。二つ目には、誰もが共通に持つ資質・能力を育む教育活動を推進する。三つ目にはサポートといって、個の困り感に応じた指導・支援をする。特に中心となるのは Common の部分だということで二番目から

説明をいたしました。この「誰もが」っていうことでぜひこれは事業の主体的対話的で深い学びと言われますけれども、授業オンリーではなく、子どもの生活全て、活動も全てその中に含まれるという捉えを是非して欲しい。そして主体的な学びを進めていく上では、是非自分で決める、自己決定をする、自己選択する、自分で決める財源にこういう知識を持ってことにあたれるという、その辺りをぜひ大事にして欲しいということ。或いはあとは、学習への興味関心様々な事柄に興味関心。これ面白いからやろうではなくて何故面白いのかっていうような知的好奇心をくすぐるようなそんなことを、先生方はアイデアを注いでほしい。というようなことを話しました。対応的な学びでは、五十分、四十五分間まっすぐ前を見て、先生の話聞いている授業はもう終わり。やはり自分たちで考えたものをきちっと、ただ小グループで話し合いをしながら、当然自分で、発信をすることが大事だし、友達や仲間が言うこともきちっと聞いて企画をして、課題とかそういうものを深めていけるというそういったことが大事だ。是非そういう場を設けて欲しい。答えが一つじゃないとかいうのは、世の中にいくらかもあるので、一つじゃないことに対してどういう答えが一番いいのかということを皆で相談をしながら話し合いながら求めていくようなそんな通話が大事だなと。深い学びのところでは、是非学習前と体験後、学習後の自分を比較して、こんなところが自分が成長したなっていうような自己評価、自分が自分で評価する。そのあたりを大事にして欲しいと話をしました。そしてこれらのことを進めていく上で大事にし、絶対になければならないのが、お互いに認め合って、それぞれの存在をきちっと認め、そして話を聞くそういった風土が醸成されないときに、この学びは成立しないと。その学びを成立するためには、先生方の集団、職員集団の中に、報道でもありましたけど、あのようないじめのような世界があれば、絶対子どもたちが、育たない。教えなくても、その職員チームの向上心とか、風土があれば、子どもたちが自然に身についていくもの、是非その辺の働き方改革と絡めて大事にしてほしいと話をしました。三番目のサポートについては、個の困り感に応じた指導支援をして欲しい。簡単に言うと、視力が悪い人が眼鏡をかけたら、ものが見える。そうしたら、学校でできる支援についてはその子の理解をして、是非その後の学習環境がきちんと整えられるようにして欲しいと。できなければ、関係機関とつなぎながらその子が充実した生活を送れるようにして一人一人の理解をしていくことの大切さをお話ししました。最後チャレンジの部分でいうと、

これは学校でも特色あるという活動をしておりますが、ちょっとこれは軽重からいくと軽の部分になるかもしれませんけど。ぜひ地域へ出してくれ、いうことをお願いしました。「わくわく」であるとか「Gさうす」であるとか様々な職業体験であるとか地域はまだまだいっぱいあるので、是非そういったところでも、学校の学びを受けさせる意味でも出して欲しい。そういった話をしました。

そういったことを総じて、子どもが育つ場っていうのは学校だけではなくて地域そして家庭、そしてもう一つ行政というの、大きな関係をしてくるこの四者が連携をとりながらこのベクトルのある繋がりが、子ども家庭庁の発足に該当する部分かなと思って。これは四月二十日に先生方に話をさせていただきました。

初めの話をするかどうか迷ったのですが、とりあえず今の私の思いを伝えさせていただきながら、それぞれの立場で、子どもたち、地域の方々、保護者を目の前にされたその姿を見かけて思っている思いを語っていただきたい、それをうまく形にできるかは、何度も何度も、推敲しながら、大綱及び振興計画のほうに反映さしていきたいと思っておりますので今日は書き足らない思いを語っていただけたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。以上です。

生涯教育  
課長

ありがとうございます。  
続きまして、学校教育課、宮川課長、よろしくお願いいたします。

学校教育  
課長

学校教育課長宮川でございます。先ほど教育長からお話がありましたように、今学校現場でどんなことが起こっているか、これからのことを考えたときに先週校長会の方に参加した話をしようかと思います。学校現場の方では、まずは子どもたち、一人一人を大事にするということがミニマムスタンダードでこんなことがきちっとどの先生もできればいいのではないかとということで、授業手法や学び方についての部分で共通理解を進めてまいりました。どの先生も同じようにルールを守りながら、きちんと学び方を教えていくということを学校現場では考えつつ、この総合教育会議の中では、できれば、未来についてということで昨年度まで、私の方は、文部科学省研究開発学校を担当させていただいておりましたので、十年後の学習指導要領について考える場がありました。そのこと少しお伝えさせていただきます。先ほど町長さんの方から、これからの世の中どうなっちゃうのだろう、変容していくなんていうお話をいただきました。常にそういった、十年

後の学習指導要領考える会議ででていたのは、やっぱりこれから予測不可能な十年後どうなるかわからない時代でありながら、それでいてその中で対応できる人間性を育てていきたい。ただ、実際どうなのかって言われた時に、自己肯定感が弱いとか仲間関係が希薄になってきているそういった中でどんなことやっていけばいいのかっていうなかで、教育長から示された資料にあるウェルビーイングや特にOECDの方からでている経済開発機構の学びの羅針盤の方などを見ながら、実際根拠となる未来の本文はなかなかないのですが、そういった中で、ウェルビーイングっていうことを使いながら、我々の方は自己実現できるものにしていくためにはどうしたらいいかというのを考えていました。教育長の方から出ていました資料の中に、大きく三つその中で言っていました、校長会の方でも、確認したのですが一つは問題解決。自分で出来ることはさせてあげたい。プレゼンの中の三つ目の最適解のところですよ。どうしても子どもたちが正解を求めたがる。最適解を求める。折り合いをつける。そういった力をつける。そういったことを考える。子どもたちも親さんもやっぱり正解を求めてしまう。ただ正解が一つではない。その場で、その時で一番いいもの何かな。もう一つは関係構築力をしっかり育ててあげたい。この資料の右側の部分、主体的対話的な学びの部分、そして主体的対話的、要は正解を求めるために一つ一つ、持っている力もちろん日本人の特性として素晴らしいと思っていますが、関わりながら、わかっていない子をわからせてあげる。またわかっている子はそういった説明をすることでより深い理解に変わっていく。そういったことで、色々な多様な仲間同士で学びを深めていけるような子どもたちでありたい。もう一つは、最終的には、その子たちが本当にみんなを幸せできるような人間性貢献できる人間であるかということが、求められています。ウェルビーイングという発想に繋がっていくことだと思いますが自分が幸せになることが仲間の幸せなのか、仲間を幸せにすることによって自分が幸せになるかっていうのは、後先いろいろな考え方があると思いますが、子どもたち自身が、欲は持ってはいけないわけではないですがそれだけではなくて、皆を幸せにできるような人間。未来を考えられるのは、学校であると思っています。そんな形で、ぜひ今日ご意見いただきたいことを求められるのはありがたいと思いますのでご意見いただきたいと思います。



生涯教育  
課長                      ありがとうございます。次に、社会教育課藤枝課長、お願いいたします。

社会教育  
課長                      社会教育課長藤枝です。よろしくお願いします。  
冒頭の教育長の話にもありましたように、子どもたちが学ぶ機会、成長する場は学校だけではなく、家庭や地域がとても大切な学ぶ場であると思います。そして地域と学校をつなぐという点で、学校運営協議会というのが大変重要な場であると考えていますので、こちらの学校運営協議会の充実を図りながら、地域の皆様にも当事者意識を持っていただき、笠松町、岐南町、すでに地域で学ぶ場たくさんありますので、それらをうまく子どもたちの成長の場に生かし、整備、そして発展させていきたいと思っています。皆様またご意見よろしくお願いいたします。

生涯教育  
課長                      ありがとうございます。次に教育委員の皆様から順にご意見を伺いたいと思います。久野委員さん、よろしくお願いいたします。

久納委員                      教育委員の久納です。よろしくお願いします。  
私もちょっと意見がまとまらないところがあるのですが、町長さんがおっしゃられたようにコロナの時代を通して教育の仕方がすごく変わったと思っております、私自身も理解する形で自分の中に落とし込むというのに必死なのですが私が考えるのはまず、今前提にされているのは個の実態に応じた学習支援が必要であると言われておりまして、この間新聞なんかでも、今までは学習する場は学校であるという大前提であったのが今は学習する場は個の実態に応じて選択できるに変わってきているというようなことが書いてありました。指導に応じて教育的配慮が大事である。なるほどそうだと思いますし、そういった土台作りというかその子を取りこぼさないような土台作りが大事だとは思いますが、それが主になってはいけないとかやはり私の中では学校に来て皆で一緒に学習するのが理想だと思っております。今回の次期教育振興基本計画の方向性ウェルビーイングにも書かれていますけれども他者のことを認め合うこと、大事にするということも社会性を養うということも学校で学ぶべき大きな一つのことなのでより魅力的な学校づくり、来なくなるような学校づくりと言うようなことを考えてほしいなあと思います。それには先生たちが自分の指導に自信をもって楽しんで指導できるそういうようなことも必要だ



と思っております。この間、市町村教育委員会のほうからでも会合に出席させていただいたときの話にあったのが個々の実態に応じた学習環境が必要である中で生徒の個々実態に応じただけではなくて、教師の個々実態に応じた教え方もある。だからこの先生はこういう指導が最適だというのがあると思うのでチームで考えて魅力的な学校づくりをしていったらいいというお話があって「なるほどなあ」と思った次第です。もう一つはITの普及に伴って学習の仕方がすごく変わったと思っています。最初のころはタブレットを使う、電源をいれる状態から始まって、今はタブレットを使って色々なことが出来るようになっておりまして、私も授業参観を見させてもらって日々驚き、先生も上手に使っていらっしゃるなあと思って頭が下がる思いです。一方で私の周りにいる人だけかもしれないですが、基本的な読み書き計算の力が非常に落ちているようにも思われます。一部の人だけかもしれないですけどそれは漢字読めなくても検索すればでてくるからこだわらなくていいのか、もうちょっとやったほうがいいのかそのところが私もまだよくわからないので先生たちや、学校のほうでこれは今後こういう勉強法があるのでここまではやってほしいけれどもそれ以上のことは必要ない、新しい考え方で学習をやっていくのだよ、ということを先生たちのほうから、子どもたちや保護者に伝えていただけたらなあ。私でこれだけ色々悩むので保護者の方々もこの子これはこれだけできるけど、こっちはこれだけ出来ないのだけどどうなのと思っている部分が多々あると思われますので、学校のほうからこういう指導方針を勧めていただけたらとありがたいなと思います。以上です。

生涯教育  
課長

ありがとうございます。岩井委員さん宜しくお願いします。

岩井委員

それじゃ、私も思いつくままですが、お話させていただきます。

児童生徒に限らず、今のいわゆる青少年にすごく大きな影響与えているのは、日本の少子化だということです。子どもが少なくなったことによって親は自分の子の中心主義に明らかになっている。過保護になっている。その結果、子どもたちは、自立心に欠けて、精神的な確立がない。多分これからの世の中はわからない、誰も予測できないですが必要なのは単なる知識とかそういうレベルではなくて、生き抜くような逞しさだと思うのです。そこを何とか見つける場として、学校

は一つのバナーであることは間違いない。ただ、それだけではないというのは、冒頭教育長のおっしゃった中にあるように家庭にあるし、地域にあるし、そんなところも、小学校で語らなきゃいけないかなと思うのです。少子化の結果何が今起きているかっていうと、児童生徒は学校に幼児は幼稚園及び保育所に、要するに全部託児所化していると思う。親がぶん投げている。家庭での教育っていうのは、そもそも、もう他人任せになっている。そんな家庭が結構多いのではないかなと思うのですね。特にこの岐南、笠松両町の家やアパート等に住んでいるような多くはそんな家庭が結構あるように思います。そういったってどうするのだということが一番の課題かなと私は思う。

ちょっと私事なのですが、私は一番下の孫が今年の春、関東の中高一貫校に入学しました。そこの校長先生が入学式をやるとき親に向かって言われたのがただ一つ、子離れをしてください。勉強のべの字もなく、親はまず子離れしてください。中学一年生って朝早く多分六時半に起きなくては間に合わないようなのですが、それでも寝すぎても起こさないでください。自分で起きるから、任してください。そういうことをやはりやっていかなければいけない時代になってきたかなと思うのですね。そういったものを身に着けるのは多分学校だけでは先ほどから色々な教え方とか色々な教育の一番として色々なことがありますけど、それだけでは絶対不足でして、やっぱり地域での色々な活動だとかいうものは絶対やるのだと。必要でやっていかななくてはならない時代になってきたかなと思うのですね。要するに次世代を含めて揉まれなくてはやっぱりだめだ。そういう場を積極的に作っていかなければならないが、幸い岐南町も笠松町も色々な諸団体がそういう活動やっている。それを受けての行政から支援については、そういうこともやっぱり必要になってくるかなと思っています。合わせて、これ行政の方にもお願いもありますけれども。もう今や幼児から義務教育までずっと見ていますと、こういう部局と福祉局との関係は非常に難しいところに来ていると思うのですね。割と子育てという面から言うと、どうしても福祉の面と教育の面と両方見ていかなければいけないじゃないですか。限界があるのを感じます。ですから、このあたりが本当にもう家庭庁の発足じゃないですけども。やっぱり教育という教育は子育てといった方がいいですよ。この辺りはそういう部分だけを、統一して一本化してもらってもいいのかな、そんなことをお願い申し上げたいと思います。

生涯教育課  
課長

ありがとうございます。  
西委員さん、よろしくお願いいたします。

西委員

教育委員の西です。宜しくお願いします。考えが決まってないですがここ数年コロナ禍で中学生の職業体験がなくなってしまって、代わりに職業講話になっているのですがやはり実際体験したのと聞くと違うので体験に勝るものはないなと思っています。話がずれるのですが去年、一昨年の広報でその時の成人式か何かで二十歳の子で岐南町に望むことが載っていたのですが、中学生ぐらいまでは関わりがあるけれど、高校生、大学生となると、もう関わってもらえないみたいなことが書いてあるのがすごくずっと私頭に残っていて。幼児教育、幼児とあと高齢化で、高齢者の方にとかいうのはすごく目をつけられて、小中学生もやっぱり教育委員会とかでいろいろな指摘して直したりすることはある。結構高等、大学に行っちゃうと関係ないというか、もうせっかく今まで岐南町と笠松町で育ってきたというのをパッともう手放しちゃうというか、なので、何かその方向性を高校生、大学生の子たちをうまく何か関わってもらってその町を良くしていつてもらえないかなっているわけです。例えばどうして進学したのかとだから私はこういうことをやりたかったからこういう道を進んでいるとか、そういうのを下の子たちに伝えてあげるっていう場もあったら面白いなと思う。大人の方に聞くよりも、結構この中学生ぐらいの先輩のことって心に響いたりするのでその年代の子たちをうまく、町に入れて、一緒に活動できたらいいのではないかなというのをすごく思っています。その人達がここで交流して育っていったら、岐南町でまたその子たちがいろいろ仕事をする事で、町全体がすごくいいふうに変わっていくのではないかなって私は思っています。義務教育が終わっちゃうけどどうもその人達を指導してもらおうというか、下の子たちを指導してもらえるように使っていく、言い方悪いですけどそういう方法があったらいいなっていうのを感じています。すいません、考えがまとまってなくて。

生涯教育課  
課長

ありがとうございます。  
波多野委員さん、よろしくお願いいたします。

波多野委員

失礼します。教育委員波多野です。宜しくお願いします。今色々言われましたが、間違っていないと思いますけども、まず岐南町笠松

町の方にいい部分が、あると思いますので、そういったものを生かしていただけるというか、指導していかれればいいと思いますし、特に、今色々な日本のよさを忘れてしまって外国のことを取り入れすぎて、非常にあと、外国とつき合っていくにはそういうことが大事なのかもしれません、日本の一番今まで培ってきたものをもっと主張した方がいいのではないかとことを常に思っております。それとあと、自己肯定感を出せるような教育ということ、やはり他国に比べると日本はまだ低いということをいわれますが、私も実際、色々なことを肯定できるようになったのは、社会人になってからぐらいでずっと劣等感を持った状況でずっと少年時代過ごした用な気がしますし、ただ劣等感等いう風にみえますけども、人からは、そんなふうには見られてなかったのです。自分の中で何か自信をもってこうやれるようなことが、つくれなかったなあという自分の若いころを見るとそういう風に思いますが、ただどうやって、自己肯定感を高めていくのかというところを考えると、大学行った同級生なんかは、見ているとほんとに自信をもってやっている人間から劣等感を持った人間からそういう仲間が集まってきて自分に自信持っているやつの行動なんかを、見て自分もああいうふうにやったらいいなあとも私もああいうふうになりたいとしたら、少しずつ変わってきました。そういうのは、中学校からですね、幼稚園、小学校、中学校、高校と、そういう意識を持って、学校生活を送っていけると、変わっていきけるのではないかなあとそういうことを教えるようなことじゃないかなあとと思います。それと取り留めない話で申し訳ありませんが未来を予測できない世ということですが、私非常に思っているのは小学校の社会の時間にこれから、人口は増大して、食糧危機がおきるぞと、これが少子化になるなんてことを誰も教えてくれませんでした。私今七十歳ですから、私の小学校の時から、すでに未来を予測できないような社会ではなかったのではないかなと思います。だから今始まったわけではないと思うのですね、未来を予測できないというのは。いかにも今そういう時代になったみたいなことを言われますが、未来のことはすでに昔からただ予測できるような、時代ではなかったのではないかなと思います。それから英語の力が必要だと今になって小学校で、英語をやっていますが、私の小学校の時から英語は大事だからやれって、授業ではなされていましたが、大変遅れている。そういう大事だろうけれども、出来なかったのはやっぱり教育がしっかりとされてなかった。それが原因で例えば人によって違うと思いますがべらべら話せる人もいます。今は卓球

の選手がぺらぺら中国語を、話している映像が出ていましたけどやっぱり環境に、おかれるといろいろ必要に迫られて出来るようになると思いますし、私、スポーツ科学センターというところで私専門がスポーツなのでそこにいたときに、外国の指導者を県が何人か雇っていました。そうすると、その人たちは、あっという間に日本語を話せるようになります。本当に必要迫られて、やらなきゃならんということになると絶対に。日本の招待選手なんかに通訳をつけているのですが英語をしゃべってワイワイやっている状況をみるとそういうふうな必要に迫られるとやはり人間変えていくと思います。そういう状況をつくり出していくような作業をしていただけるといいかなと思います。

もう一つだけ言わしていただきたいのは、今格差社会といえ、非常に経済的にも格差がある状況になっていますが、特にこの岐南町の方、非常に人口が増えるというのは、東小学校なんか校舍作ったぐらいですが、格差が非常にあってそういう子どもの教育の親の姿勢も、非常に格差がある。だから塾に通わせることが出来る親から出来ない親がいると思いますのでそういうところの格差を、いかに子どもたちに影響ないようにしていくかという非常に大切なことではないかなと思います。大変難しい問題ではありますが。あと、また学校に行きたくないというような子について、実際、自分の子を見ていて、自分の子どもは全然学校行きたくないなんてことはなかったのですが、実際私は、小学校のころずる休みよくしましたし、学校行きたくないという意思がある時期が実際ありました。私は、学校行きたくない理由が色々あると思いますがそういうところ家庭状況だけじゃない色々ところの問題があると思いますので、そのへんのところは二町教育委員会、私教育委員になって色々一生懸命色々やってくれるなあと感じておりますが、そういった子どもたちにも厚い支援をされておるのでこれからもやっていただくと子どもたちは良くなっていけると思いますので、よろしくお願いいたします。

生涯教育課  
課長

ありがとうございます。  
続きまして、川部笠松副町長、よろしくお願いいたします。

笠松副町長

笠松町副町長川部と申します。先週金曜日に町の防災会議がありまして、教育長にも来ていただいているのですが、すごい冊子で1.5cmぐらいの分厚いやつで本当に視点を絞らないと、防災に何に力入れているか全然わからない。総合的なものです。教育の面も、私思っ

ていること一つだけでして。二町の先生方には是非働き方について、精神的に体力的にも余裕のある環境を作っていただきたいなと思っていますところ。そして少しでも、子どもたちと触れ合う時間、それから時代が変わっているということで、リスキングというか学び直しの時間にあてていただきたい。それからもう一つはですね、先生の思いを子どもたちに伝えていただきたいと思います。私は岐阜市の端っこの柳津町の境川中学校というところ出身なのですが、30歳前後の若い先生ばかり、型破りの先生ばかりで、かといっていい加減かというところでもなくて、最後は校長先生とか、この学校教育課長も就任されましたので、立派な方だと思うのですが、授業の方は脱線しまくりました。若いのですが、結構人生経験を教えていただいて自分の考えをはっきり話されていましたし、体育の行事、色々な行事がありましたが、運動会とかクラス対抗の授業ですが、結構今はないかと思うのですが、あと生徒と先生が競争するような競技もございまして、本当に一生懸命やってきました。次の日は体が痛くてしょうがない、そういう一生懸命さを結構学ばさせていただきました。私今も昔も素直ですので、当時の先生方の人生経験や一生懸命さを後の人生で学ばせてもらったかなと思っています。そういうことで最終的に子どもと向かい合うのは、先生一人一人ですので、是非そういった環境を作っていただきたい。行政は、必要な限り、ICTの環境とか整えさせていただきますが、最後はやっぱり先生です。その辺りよろしくお願いします。取り留めない話でしたが、終了いたします。

生涯教育課  
課長

ありがとうございます。  
続きまして、傍島岐南副町長、よろしくお願いいたします。

岐南副町長

傍島副町長でございます。発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。冒頭のごあいさつで町長さんのご挨拶にもありましたが、このコロナがあけて、コロナ後の教育というのですか、社会全体が、コロナ以前に、もう戻ることはないだろうというふうに考えておりまして、また一部分戻ることも当然あるかとは思いますが、また新たなルールづくり、仕組みづくりっていうのが、必要になってくるのではないかなと思っています。教育に関しても、一緒に、コロナの関係で、一人一台タブレット、皆さん配られましたが、そのタブレットを三年間使ってみて、今後どうやって使っていくのだということも、当然念頭に置いて、一年生から六年生或いは中学生、それぞれの



使い方があってと思います。また今後、A I っていうものがどんどん発達していきますと、ひょっとしたら知識はA I から教えてもらうのではないかって言うか、先生ではなくてA I から直接学ぶっていう機会も、また、出てくる可能性があります。その時に、学校の先生教師の方は何を子どもたちに教えていくのだということも、教師でなければ、人間でなければ、教えられないことということも、当然分けて考えていく必要があると思います。タブレットがあることによって、一部の不登校の子でも、教育の機会を当然得られますし、自宅でも可能であるというふうにはなってきますけど。ただそれが全ていいかっていうことも、検討していただきたい。学習の機会は奪ってはいけませんっていうかどんどん提供してあげたいのですけど、本当にその学び方がいいのか、或いは、良くないのかというのはこれからまた社会の中で問われていくことなろうかと思う。通級の言葉、特別支援の学級の子も含めまして、それぞれに合ったそれぞれの学習方法というのがどんどん選択肢が増えてきておると思います。そういう機会も、たくさん出てくると思いますので、その辺は皆さんとまた協議しながら、少しでもいいように、子どものためになるように、例えば子どものニーズっていうのは、いかに把握して、学習機会、或いは学習の場を提供していったらいいかって言うのが大人の仕事であると思っておりまして、どうぞよろしくお願いします。

生涯教育課  
課長

ありがとうございます。  
古田笠松町長、よろしくお願いいたします。

笠松町長

皆さん示唆に富む意見、いろいろ頂いて勉強になりました。私なりに普段考えていること、少し話させていただきます。今子どもたち非常に色々な課題を抱えていると思いますが、ちょうど教育長さんが作られたペーパーのところ、この自己肯定感の低さと言うところ、精神的な弱さとかも、一番大きな課題ではないかなと思っています。それらはどこからきているのかというちょっと根源的なところを見つめていきたいなと思うと私これ言うとなんかお前国粹じゃないと言われるのですが、これ日本のプラットフォームというか、生き方の軸というのが今日本人見失っているのではないかなあとと思います。かつては武士道というのがありましたし、中庸というがありまして、戦後、そういったものは軍国主義だっていうふうになって、私なんか誤った考え方だと思うのですが、そういうのを否定していました。かといってア



アメリカとかヨーロッパといった教育の理念では、アメリカ、ヨーロッパは宗教のキリスト教が関わってきますが、それをまず入れずに、表面的な制度だけ取り入れてしまうっていうならアイデンティティもなければ軸もない中で子どもたち、我々、私も含めて教育をされてきたと思うのです。でもそれ何でうまくいったかというそれは経済成長があったからです。国が豊かだった、経済が豊かだった。全てがお金で解決できる、だから経済的な受け口があり、ジャパンアズナンバーワン、世界第2の経済大国というこういう自信があったから、そういったものを素材にしていけばいいのだとしていた。だから昔、モータース社員とか、働くことが美德、会社で一生懸命働いて給料たくさんもらって、奥さんや子どもを養うことが、これは立派な社会だと。大人だってそういうような価値感があった。ただバブルが崩壊して、もういま日本は先進国の中でも非常にまだまだGDPはナンバースリーなのですが、一人当たりで見ると、もう二十数位というのを、一流国じゃなくて中流国です。そういった現実を見ると、根幹としては経済大国という自信がなくなってしまい、そして、いまだにどういった国にしていくなかということがもやもやしながら技術的に少子化対策といっても、言葉は語弊がありますがばらまくことによって子どもが、増えるのではないかという、表面的なものにとらわれ過ぎているというところが、今この社会の中、言い方失礼ですが、戦後教育の、ツケが今回ってきて、考えてみれば八十年も同じ教育をしていけば、当然この社会の変容っていうのについていけないと思います。社会の変容と申しましたが、その変化に柔軟に対応するにはやはり軸がないとできないと思います。軸がないからあっち行ったりこっち行ったりしてその中で迷う人たちができている。そしてそれが一番煽りを受けるのが、まだその精神的に未熟な子どもたち、或いは青少年ではないかと思います。よく、どこにも持続可能という話があります。「持続可能」皆さんいろいろイメージされると思いますが、私一番わかりやすい例は、商売人ですから、老舗です。老舗百年、二百年の会社、お店があります。それらはどうして持続可能になっているか、というと、そこの売りの商品がある、或いは売りのサービスがあって、そしてその軸があるからこそ、売りがあるからこそそれを時代に合わせて、色々なバージョンを変えて、そして、どんどんどんどん発展して、今でも残っている。ただ闇雲にその場その場で流行っているものの商品を作ったり、流行りのそういうサービスを出しているところは、やっぱ早晩十年二十年ともたず潰れると。私今日本というのはそういうよう

な軸がなくて、漂流している社会っていうのが、今非常に、大きな課題というか、ものすごく今大きな問題ではないかと思います。

ちょっと先生方にお聞きしたいのですが、今高校っていうのは倫理社会という授業があるのですか。哲学とか宗教の基本的な知識を学べるのですが、西洋哲学とか。

学校教育課長 一年生に対して現代社会とか。さらに選択になるのですが、そちらのほうを学んでいく。

笠松町長 やっぱり、こういった国の問題になって文科省の管轄になりますが、もっといろいろ倫理哲学、或いは宗教というのも僕は学んだ方がいいと思います。それを言うと、いかにもカルトというのですがそういった基礎知識がないものだから、すぐネットで飛びついてしまって、自分で判断できずにいかにも自分の中で都合のいいものを自分の意見として取り入れて思い込んでしまうと、そうすると自分と違ったものを排除してしまうというそういった社会の根源があると思うので。そういったのをこの羽島郡はせめても、自分で生き方を見つけられるような、自分でそういった考え方をしっかりと持てるような、そういった子どもたち、大人になって欲しいなというふうに思っています。できることなら色々な人の意見生き方とか考え、そういったものをもっともっと吸収して欲しいと思います。学校の学習も大事ですが、自分の確固たる自信を持てる、これはこういう言い方をするのだ、私はこういうようなことを、人生の信条しているのだと、そういうのを人に向かって堂々といえるような人間っていうのは勝ち残っていくってものだと思います。「勝ち残っていく」というものって言い方、適切じゃないかもしれませんが、時代の波に揉まれることなく、乗り越えて波に乗って、さらに一歩二歩に動いて、この地域ですね、色々な意味で活性化のリーダーとなって、みんなを引っ張ってくれるとかそういった人材を、一人でも二人でも生み出していく。それがこの羽島郡の教育の、この中では理想じゃないかなと思っています。また、こういったことを、すぐにはなかなか解決策ないと思いますがまずはこういった議論を、色々な機会で、特に親御さんにさせていただきたいなと。もう今、さっき、いわゆる岩井さんが子離れっていうことがありましたが、もう今、子どもに依存しています。多くの。SNSを見ていて、ちょっと嫌だなと思うことがあるのです。自分の子どものことを息子ちゃんとか娘ちゃんとか言うのです。これって、

僕の世代だとね、ちょっと何か考えられないことです。でもそれがもう当たり前になっている。そういったことじゃなくて、子どもは子どもの人生がある。親は親の人生がある。みんなそれぞれ色々な人生言い方考えられてそういったね、みんな違って皆いいというようなものを、何とか学校現場だけでなく、地域や我々行政の人間もしっかりと手本となるように示していきたいちょっと熱くなりましたが、そういう思いであります。

生涯教育課  
課長

ありがとうございます。

今、七人の方の意見が出ました。それぞれの方の意見を聞いた中で、こうしたらいいと、また新たに意見がありましたら、ぜひお願いしたいと思います。ご意見はございませんか。

いろいろなご意見ありがとうございました。これをもちまして、令和五年、岐南町笠松町総合教育会議を閉会させていただきます。本日の会議の議事録につきましては、事務局で作成しまして、ホームページにて公表する予定でございます。

本日は皆様方にはお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。以上です。

ありがとうございました。

教育長

今日はありがとうございました。

もう終わって閉めてしまっただけですけど。色々な見方があるなと思うし、うちは常々、川の中がどうなっているかを知ること大事だし、橋の上に立ったら川がどうながれていくかでも大事だし、或いは見る方向感とか、高さ、様々なところからやっぱり一つの事象、やらなくてはいけない。今日いただいたご意見を自分なりに教育委員会なりにも整理をして、一つの羽島郡としてのこれだというものを示していきたいと思います。どうもありがとうございました。